

雪氷対策作業における新型コロナウイルス感染防止対策の取組紹介

竹山 茂^{*1}、見方 功^{*1}

1. はじめに

弊社は、「社会・経済活動を担う高速道路の安全・安心・快適を提供するため、新型コロナウイルス感染症が流行する中でも、必要な感染防止対策を行ったうえで、基本的にこれまで通り実施していく」という初期中日本の基本方針を踏まえ、会社として継続すべき最低限の業務（路面清掃、緊急事故復旧、路面補修など）及び雪氷対策作業を履行すべく、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策（以下、「新型コロナ対策」という）を実施し事業継続を図っている。

今回は、金沢支社及び弊社の重点施策である雪氷対策作業における新型コロナ対策の取組を紹介するものである。

2. 現況と問題点

金沢支社管内は、北陸道・東海北陸道・舞鶴若狭道の3路線を担当しており、雪氷対策作業の起点となる雪氷基地の施設は、2010・23個所に設置され、延べ40,000人程度が雪氷対策作業に従事している。

雪氷対策期間は、11月15日から翌年4月15日の間であり、特に12月中旬から2月下旬は、厳冬期と位置付けられ凍結防止剤散布・除雪作業に必要な運転手・助手の常駐拘束期間（夜間）として、降雪の有無に関係なく、その対象従事者を雪氷基地に待機させている。

待機するスペースは、その雪氷基地で常駐拘束が必要な人数に対して、一般的には1部屋に2段ベッドを5基設置し、10人が待機できるように雪氷基地の既設詰所が設置されているが、新型コロナ感染拡大の観点から鑑みると3密状態である。

また、シャワールーム・食堂・喫煙所・基地連絡員室についても、複数の従事者が使用するため、同様の状態である。

雪氷対策作業従事者は、50代以上の方が5割程度を締めており、新型コロナに感染すると重篤な状態に陥る心配がある。従来でも雪氷従事者の人集めに苦労するところに、輪をかけて人手不足が懸念される状況となった。

3. 雪氷基地施設の3密対策

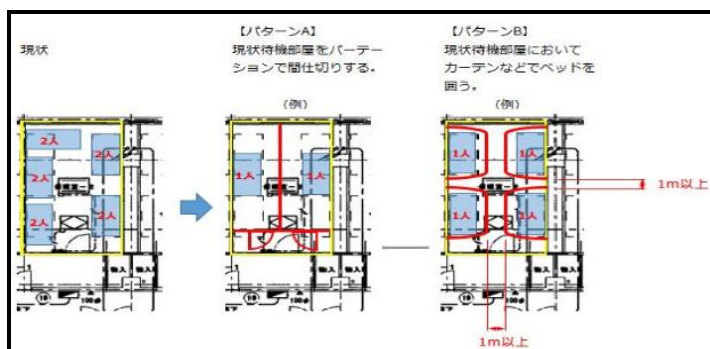
1) 待機スペース確保の標準的な考え方

新型コロナ対策を考慮して、雪氷基地の待機スペース等の方針を次のとおりとし、図-1に待機スペースの間仕切りパターンを示す。

① 新型コロナ対策は、1人1部屋が望ましいが、現状での確保は難しいことから待機部屋を間仕切りし、必要な待機スペースを確保するものとする。

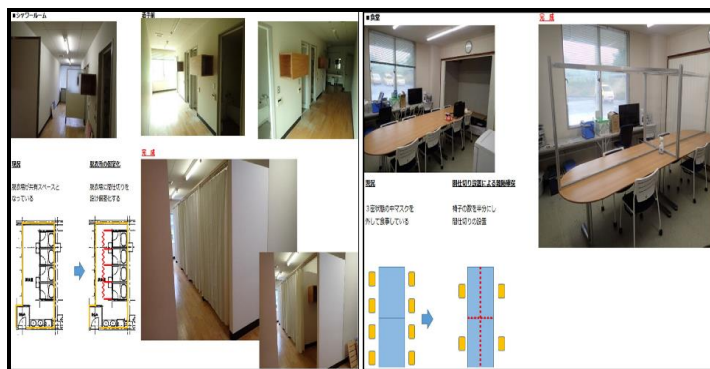
② 待機スペースの使用は、1か所当たり1人を標準とする。

- ③ 待機スペースの数は、常駐人数分を確保する。なお、既設の建物で常駐人数分を収容できない場合は、仮設ハウス等に対応するものとする。
- ④ 待機スペースには、2段ベッドを設置し、常駐数を超える招集や応援派遣があった場合は、待機スペース1か所当たり「運転手と助手」の2人（作業の特性上、濃厚接触が避けられない）を最大人数として、2段ベッドを上下使用し待機するものとする。



2) 新型コロナ対策用モデルルームと見学会

各雪氷基地の環境に応じた新型コロナ対策を検討するため、金沢森本基地の詰所・共有スペースにて、上記方針に基づいた先行改修を行いモデルルームとして、各事業所への見学会を開催した。



3) 3密対策を考慮した仮設ハウスの増設

既設の待機スペースで収容できない雪氷従事者のために、雪氷基地に隣接して3密対策を考慮した仮設ハウスを増設した。表-1のとおり3密対策を考慮した場合、既設詰所には434人収容となり、不足分432人を収容すべく仮設ハウスを増設した。

No.	事務所	基地名	既設施設		仮設プレハブ		近傍建物借上げ		計	最大収容可能人数(人)
			待機スペース(スペース)	収容人数(人)	待機スペース(スペース)	収容人数(人)	待機スペース(スペース)	収容人数(人)		
1	富山	黒部	9	14	20	19		33	57	
2-1	富山	常川	7	13	6	6		19	25	
2-2	富山	常川	5	5	8	8		13	25	
3	富山	富山	12	21	20	22		43	63	
4	富山	坂波	11	20	32	31		51	85	
4-1	富山	福光	7	10	19	20		30	51	
4-2	富山	福光	6	11				11	11	
6	富山	五箇山	7	12	9	9		21	31	
7	富山	白川郷	6	8	4	4		12	19	
8	金沢	小矢部	7	13		6	12	25	25	
8-1	金沢	高塚			8	8		8	15	
9	金沢	森本	35	53	28	21		74	125	
10	金沢	美川	6	10	8	11		21	27	
11	金沢	小坂	11	17	28	26		43	77	
12	金沢	加賀	12	21	8	6		27	39	
13	福井	金津	9	17	16	30	6	53	61	
14	福井	福井	11	21	16	28		49	53	
15	福井	武生	16	31	12	18		49	55	
15-1	福井	南条			12	22		22	23	
16	敦賀	今庄	11	21	26	48		69	73	
17	敦賀	敦賀	18	35	34	38		73	103	
18	敦賀	木之本	12	23	22	36		59	67	
19	敦賀	美浜	15	29	12	10		39	53	
20	敦賀	上中	15	29	12	11		40	53	
				434	360	432		894	1216	



4. 雪氷従事者確保に向けた補助金

新型コロナウイルス感染により業務遂行の支障が懸念される中、雪氷対策作業を円滑に行うべく、雪氷対策作業受注者の実施する新型コロナ対策に係る費用の補助として、雪氷従事者確保のための特別手当とその他弊社が認めた新型コロナ対策費の一部を支払うこととした。

5. 雪氷従事者の新型コロナウイルス感染確認と体調管理

1) 雪氷基地共有スペースの定期消毒作業

接触感染を防止として、雪氷基地及び仮設ハウスの共有スペースの従事者自身による消毒作業はもちろんのこと、専門の消毒会社により定期的に消毒作業を行うこととした。万が一新型コロナウイルス感染者が発生した場合、消毒作業が緊急的かつ速やかに実施できるように上記消毒専門会社にて体制を整えた。

2) 体温測定(自宅・雪氷詰所)の実施

雪氷従事者の体調管理のため、電子体温計を個人配布(約1,300人分)して、自宅を出発する前と雪氷基地での

待機中に定期的に体温測定を実施し、新型コロナウイルス感染者の早期発見に努めた。

3) 感染症対策備品(寝袋・マスク・手指消毒液等)

通常は、複数の雪氷従事者が2段ベッドの寝具を共有しているが、新型コロナ対策の一環として、寝袋を個人配布(約1,400人分:応援派遣者含む)した。

また、マスクの個人配布(60,000枚準備)し、手洗い石鹸・消毒液等を雪氷基地内に配備して、感染予防対策に努めた。

6. 新型コロナ対策説明会の開催とリーフレット配布

雪氷対策作業に従事する者は、新規入場者が少なく年々高齢化の一途を辿っている状況の中、更なる人手不足が懸念されるため、上記で述べた弊社の取組状況を事前に受注者へ説明する必要があると判断し、人確保に余裕のある時期(2020年9月4日)に新型コロナ対策説明会を開催した。

7. 雪氷基地使用ルールの策定

新型コロナ対策は、雪氷基地に待機する雪氷従事者の協力が不可欠であり、食事やトイレ・喫煙所使用等、新型コロナウイルスに感染しないための過ごし方を実践していただく必要があるため、「雪氷基地使用ルール」を策定し、安全大会・新規入場者教育にリーフレットなどを用いて従事者への教育・周知を行った。

感染拡大防止には、以下4つの対策が非常に有効です

- ・マスクの着用
- ・3密を避ける(密集・密接・密閉)
- ・手洗いや手指の消毒
- ・検温による体調管理

以下は、雪氷基地等に関する注意事項です

3 基地での待機中の注意点は・・・

- ・外から出入りした際には、手洗いや手指消毒、うがいなどを行い、感染拡大防止を行って下さい。(絶対に不衛生な手では、目や鼻や口などの粘膜は触らないでください)
- ・基地での共有場所では、マスクを着用して下さい。また、他の方と会話を行う際にも必ず着用して下さい。(他の方との飛沫感染に注意して下さい。自分のベッド内でのマスク着用は不要です)
- ・常に他の方と密にはならず、仕切りがない場所においても、お互いに2m以上の距離を保って下さい。
- ・共有スペースなどを利用する際は、多人数にならないよう順番を待ち、密を避けて下さい。
- ・共有スペースなどは、空気が滞留しないよう定期的な換気を行って下さい。
- ・喫煙する際は必ず決められた場所で行い、他の喫煙者と密にならないよう一人づつ利用して下さい。
- ・食事はテーブルの仕切りがある場所や、自分の待機場所などの決められた場所以外では行わないで下さい。(食事中はマスクが出来ません! 談話はせず飛沫感染防止を徹底して下さい)

4 雪氷作業での注意点は・・・

- ・車内の中でも飛沫感染防止のため、マスクを着用して下さい。
- ・車両内消毒を行う際は、必ず一旦布や紙等へ消毒液を移してから行って下さい。(酸腐や劣化等の原因となるので、絶対に車両へは直接噴霧や塗布をしないこと!)
- ・空気清浄機を使用すると同時に、車両の空調は常に外気導入として下さい。(また、適度に窓による換気も行って下さい)



8. おわりに

上記で紹介した取組に関して、弊社と受注業者が協力して新型コロナ感染防止対策を行った結果、延べ44,000人の従事者等に一人の感染者も出さずに業務遂行が達成されたが、引き続き新型コロナ対策を実施し、高速道路の安全・安心を提供できるよう、グループ一体となって時代の変化に対応した業務を継続していきたい。

以上